

中部国際空港（セントレア）

—中部地域における国際拠点空港の誕生—

財団法人中部空港調査会 速水宏治

はじめに

2005年2月17日に成田空港および関西空港に続く国際拠点空港として中部国際空港（以下「セントレア」＜愛称＞という）が開港した。中部地域と世界を結ぶ新たな空の玄関であるセントレアについて、紹介しよう。

1 セントレアの概要

セントレアの滑走路は3,500m×1本、アメリカ東海岸や西ヨーロッパなどへも直行便を飛ばすことができる。また、空港は24時間運用なので、深夜から早朝の時間帯にも航空機の発着が可能である。さらに空港へのアクセスも、名古屋から鉄道で最短28分と非常に便利である（表1参照）。

表1 セントレアの概要

空港敷地面積	約470ha	
旅客利用 (2007年度見込み)	(国内) 年間720万人	(国際) 年間550万人
運用時間	24時間	
滑走路長	3,500m	
エプロン	58スポット	
アクセス	鉄 道	名古屋駅から約28分
	道 路	名古屋市内から約40分
	海 上	三重県津から約40分

2 セントレアの生い立ち

セントレアを常滑沖の海上空港として建設したのは、距離的に名古屋市内に比較的近いことに加え、航空機騒音の影響が小さく、建設に適した海底地盤を持つことが評価されたことである。常滑沖は水深が浅く、海底の地盤は強固な基盤層でできている。平均水深は、6～7mであり、開港後も地盤沈下に悩まされることはほとんどないと考えられる。

また、空港島の形状については、①空港と対岸部との最小海域幅を約1.1km確保し、南下海流を妨げない、②空港島の形状に曲線を取り入れ、海域の流速低下範囲・停滞域の発生を縮小する、など環境に配慮した曲線形を取り入れている（図1参照）。

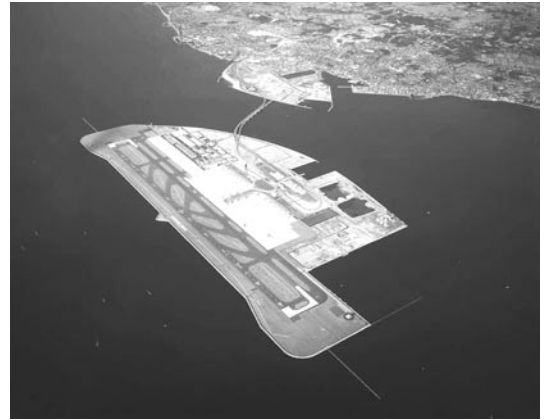


図1 常滑沖のセントレア

さらに気象条件も良く、ウィンド・カバレッジ（滑走路方向について一定以上の横風成分を超えない風の出現率のこと）は、横風分力25ノットにおいて99.5%と高いことから、常滑沖は、航空機にとって支障となる横風が少ない気象条件となっている。

セントレア建設地の絞り込みについては、長い年月を要している。新空港の候補地選定作業を進めたのは、1985年12月に国と愛知、岐阜、三重の3県と名古屋市および地元経済界が設立した「財団法人中部空港調査会」である。当時、陸上を含めて18もの候補地があった。その中で地形、気象条件、航空機飛行の安全性の観点から可能性のあ

候補地として絞り込んだのが海上の「伊勢湾東部」「伊勢湾西部」「伊勢湾北部」「三河湾」の計4か所である。この4か所が自治体・経済団体などの検討に諮られ、1989年3月の3県1市首長懇談会で最終的に「伊勢湾東部」の常滑沖が選定された。そして空港島の滑走路中心位置の設定可能な範囲は、常滑沖のゾーンの中から、陸域への騒音条件、名古屋港への航路、海底の条件（水深、ガケ、活断層）などを考慮して決定したのである（図2参照）。

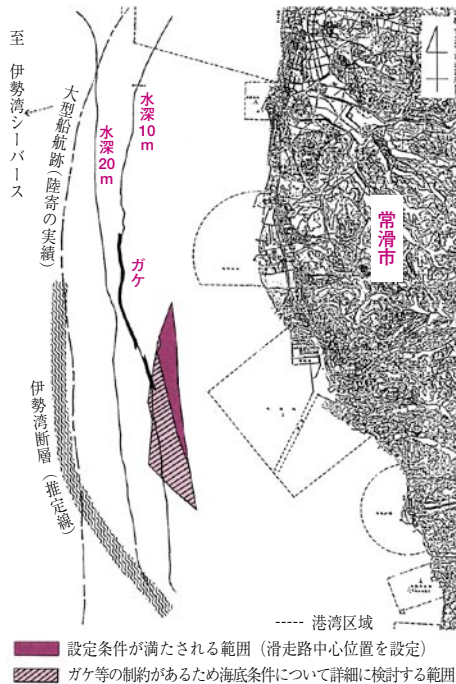


図2 滑走路中心位置の範囲

3 用地造成工事

セントレアの用地造成工事は、2000年8月に着工し、2003年2月に完成した。工事の施工調整や埋め立て工法など多くの工夫を凝らしている。総面積約470haの空港用地は、約5,200万m³の土砂によって埋め立てられている。このうち、約1,000万m³については、環境配慮の観点から名古屋港から発生する浚渫土砂をリサイクルして活用し、山土使用量の低減を図っている。先に述べた埋め立て条件の良いことが、工期の短縮、建設コストの

削減にも繋がったと思われる。

4 国際拠点空港の開港

セントレアの開港により、成田空港、関西空港とともに3大国際拠点空港の時代となった。セントレアは24時間運用の「眠らない空港」であり、国際線と国内線が同じターミナルという利便性が売り物である。年間1,270万人（2007年度見込み）の利用を見込んでおり、韓国・仁川空港などアジアの巨大空港に対抗する日本の「3大空港時代」のスタートとなり、空港間の競争も激しくなると考えられる。

セントレアの大きな特徴の1つである旅客利用における国内・国際線の一体については、国内の地方空港から海外へ、海外から地方空港という乗り継ぎが便利である。セントレアは、地方都市から海外に同日に乗り継ぎできる利便性をセールスポイントとしている。

なお、セントレアの乗り継ぎについては、国内線で札幌、仙台、福岡、沖縄をはじめ、24都市に94（便/日）あり、国際線では北米、ヨーロッパ、アジアなど、25都市に271（便/週）を就航する予定である。

2つ目の大きな特徴として、中部圏の航空物流拠点の発展が挙げられる。製造業が集積する中部地域の特性と24時間空港の利点を生かし、貨物専用便の出発を深夜にすることが可能である。これまで、成田空港や関西空港に流れていた国際航空貨物について、セントレアの利用が一層図られると思われる。

おわりに

21世紀最初の愛知万博「愛・地球博」が開催される今年、日本と世界を結ぶ新しい空の玄関、中部国際空港（セントレア）が2月17日開港して順調に推移している。そして、セントレアが世界への窓口としての役割を果たし、中部地域のさらなる発展に貢献できることを期待したい。